



まがらひ  
幻河作

うきまき  
吟書

二編上の巻



よりの  
月夜  
月夜

字書しじゆの如く惑まどふ者ものあり猶なほ天地てんちの濃氣のうき人ひととして東西とうせいに  
辨わるる能よはざりしむの如ごとくとあるるがうたふたふた  
幻まがの濃のうと押おえ所ところあり胡乱らん覚あえたり何なにも登輝とうきとを  
怪あやしき状まととて幻まがといふありめ然しかも竹たけが所ところ業わざも名なは  
初は其その幻まがの濃のうと痕あととをたぬ事ことの多おほく起おこ泉い子こも  
筆ふでと呻うえて杲あ然らと其その東西とうせいと辨わるるに苦くるむ麻あの多おほしと  
以もて押おえ所ところあり怪あやしきの聞き書きゆ名な小生せうもその校こう閱えんも惑まどひ  
登輝とうきりと添そ削せうする変へり得えるを以もて跡あとと幻まがのまがらひと  
知しるも固辞こじのまがらひ撰せんの云い譯やくとん

明治十四年睦月  
芳川春濤題

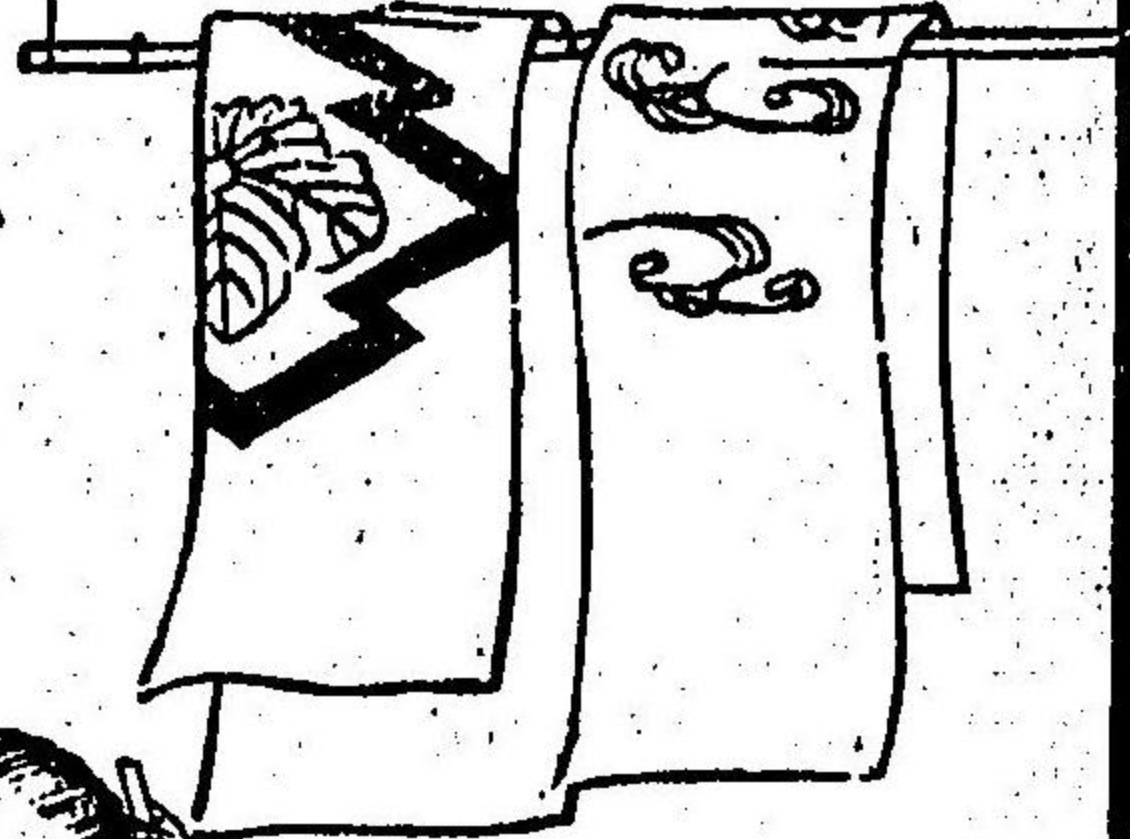


丁十二





○ ぬい鳥の町  
 外は暑くはげしく  
 中は涼しく別荘の  
 作務はかまへて  
 暇者もほかにい



お竹がそのの公使を人妻とて区別する  
 江戸の街のあつたのり手にとりまわす  
 老要准おきき  
 も内へは実情を知らぬ男ひ一葉の  
 のんごころあやまの流し入徳の心算  
 徳方の訓藻の容えらるる徳をえん徳とて  
 日々箱りとす茶と湯や菓子の海に映

丁十一



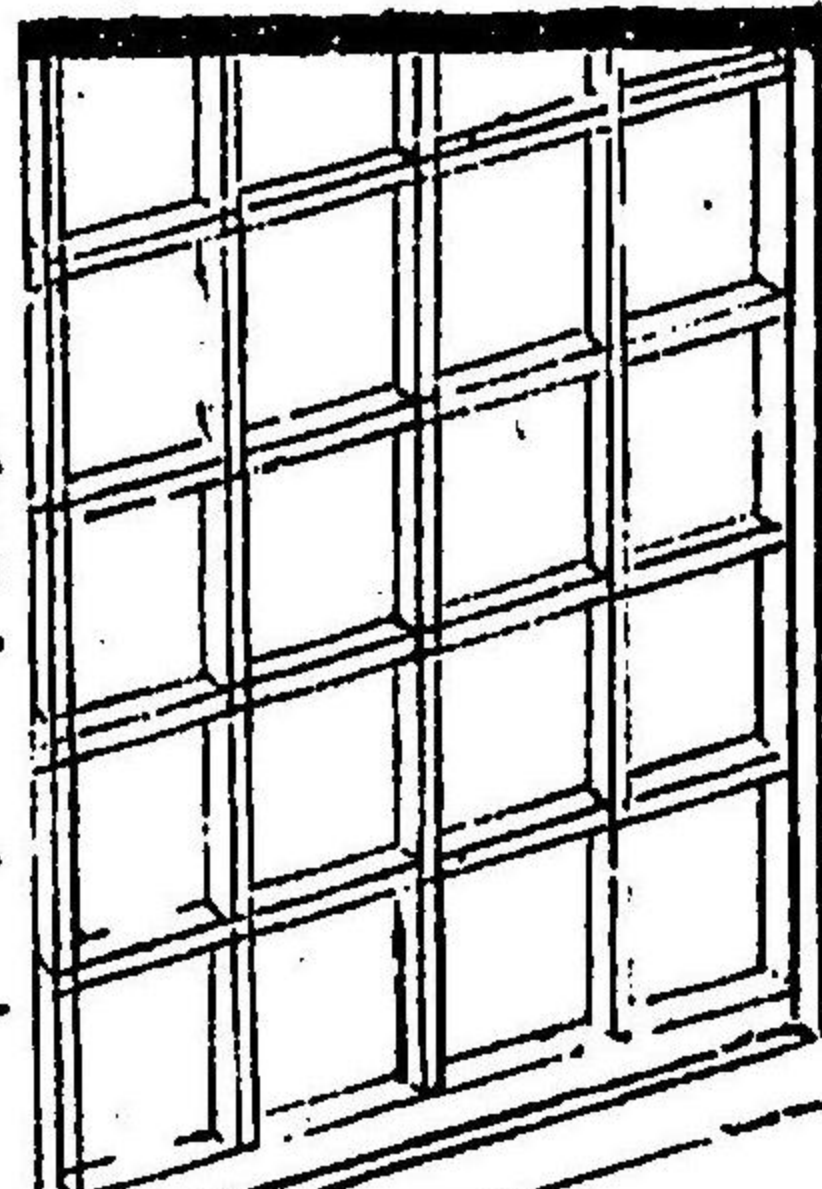
【中二】  
うきうきと遊んで  
おのれをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた

ふりすつとまへ  
ふりすつとまへ  
ふりすつとまへ  
ふりすつとまへ  
ふりすつとまへ



●今日の日  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた

あつちをたもた



あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた

あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた

あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた  
あつちをたもた

あつちをたもた

あつちをたもた





世に...  
 南亮の...  
 世に...  
 世に...  
 世に...

徳  
 是那  
 兄  
 面  
 一  
 二



世に...  
 世に...  
 世に...  
 世に...

世に...  
 世に...  
 世に...  
 世に...



ついでに...  
 へべり方を出て...  
 傍ら...  
 りの...  
 へ...  
 まんま  
 と首尾  
 よく...  
 りつ...  
 ねの...

▲早...  
 切...

自由...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...



お...  
 本...  
 わ...  
 あ...  
 知...  
 大...  
 引...  
 淋...  
 あ...

い...  
 あ...  
 毎...  
 あ...  
 仇...  
 い...  
 て...





水際にて根  
とに深  
草のうね  
と流れの身  
珠のそのの  
あつもの  
勝つハ

あつぬる人の依切若娘の身の  
跡きとみす  
いしりハ

海くつ海ご  
通ふ千もたあつね  
とも徳とあハま  
あして

あはしと店の

いみだ  
なま  
保  
かして  
月々物  
をたは  
あは  
あは  
く経  
南亮ハ



あつて海  
倉をぬれ  
ねどつね  
うせ  
目えふ  
せり秋  
の波こそよ

あつて海  
倉をぬれ  
ねどつね  
うせ  
目えふ  
せり秋  
の波こそよ

あつて海  
倉をぬれ  
ねどつね  
うせ  
目えふ  
せり秋  
の波こそよ



おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候

おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候

おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候



おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候

おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候

おきりかあるのぞ  
お作と親しく候も  
あまははのうきや  
なほと  
と  
あ  
おつひ自然と 足もをき  
かゝるお作のすおけり  
せを打たひ或日値と帯にぬ  
ふしぎ  
お名後三内様でけ換はか替けらけ  
上々ハ飯又お名に替のふりて候



命之養生善悪鏡

一册

教訓善悪図解

一册

清譽

五十二段

多巻

折本

徳川年代鑑

大功記銘傳

八册

日本

神社佛閣

名所

三巻

俳優忠臣藏

色圖

単語圖解

一册

龜地本問屋

淺草區瓦町十二番地

島鮮堂 綱島龜吉

